



# おはなし トレイン

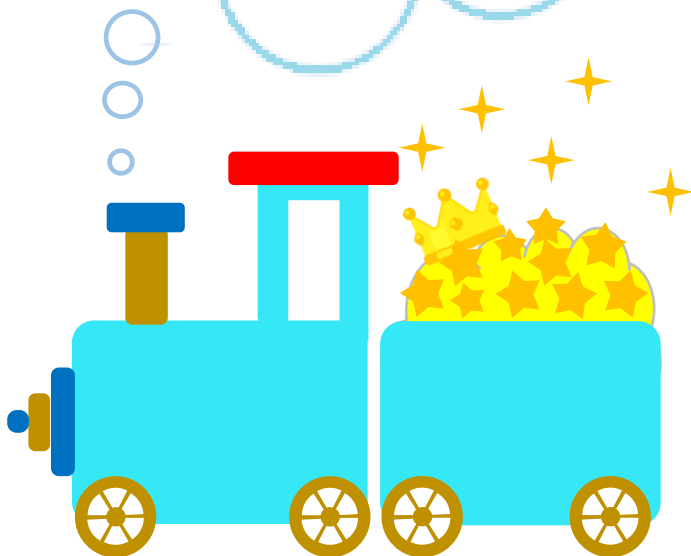
0～2歳



## 『おふろで ちやぷちやぷ』

まつたに 松谷 みよ子/文  
いwasaki ちひろ/え  
どうしんしゃ 童心社

暑い毎日、汗をかいても、冷房で冷えても、おふろに入るのは気持ちがいいですね。あひるちゃんはせっけんやタオルを用意して、ぼくは上手に服を脱いで、大好きなおふろに入ります。何気ない毎日の中で子どもが楽しく過ごすこと、それは子どもだけでなく大人も幸せにしてくれます。そんなあたたかな気持ちが、画面いっぱいにあふれています。



3～4歳

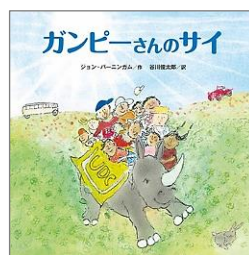


## 『だっぴ!』

きたむら なおこ/さく  
北村 直子/作  
こぐま社

ダンゴムシやザリガニなど身近な生き物たちが、古くなった皮を脱ぎ捨て、ツヤツヤピカピカの体に成長しました。「もぞもぞ…だっぴ!」とリズムの良いことばとカラフルな絵で、楽しく読めるユーモラスな幼児絵本です。ページをめくるたびに「だっぴ!」と、いっしょに声に出して読みたくなります。自然や生き物に興味を持ち始めたお子さんにおすすめです。

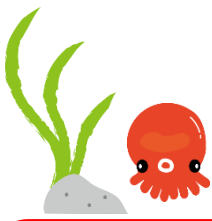
4～5歳



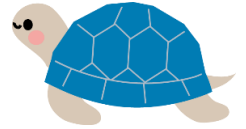
## 『ガンピーさんのサイ』

ジョン・バーニングム/さく  
たにかわ しゅんたろう やく  
谷川 俊太郎/訳  
しゅつぱん BL出版

ガンピーさんは、アフリカで親をなくした子どものサイと出会います。サイにチャーリーと名前をつけて家に連れて帰りますが、どんどん大きくなるチャーリーに、おなかいっぱい食べさせるのはとても大変でした。そんなある日、ひとりの男の子がすばらしいアイデアを思いつきました。作者の子どもや動物への愛情が感じられる「ガンピーさん」シリーズ最後のお話です。



0～2歳



### 『あついあつい』

たるいし まこ  
垂石 眞子/さく  
ふくいんかんしょてん  
福音館書店

ひかげをもとめて歩くペンギン。やっと見つけたひかげは何だかへん？ 絵本と同じように、ひかげを見つけてホッと一息つくような体験をする季節です。自分が体験したことで、より絵本に親しみが持てるようになります。最後の場面ではスカッと爽やかな気持ちになりますよ。だんだん大きくなるひかげを、「次はなにかな？」と想像しながら読んでみるのも楽しい一冊です。



### 『しろいおひげ なにたべた？』

Miya Uni/さく  
KADOKAWA

「いただきまーす」と言った男の子のおくちにしろいおひげができました。すると、あの子もこの子もあかちゃんも、おひげができました。いったい何を食べたのかな？ 小さい子どもたちの大好きなたべものがたくさん登場します。みんなで当てっこするのも楽しいですね。あたたかみのある貼り絵も魅力です。裏の表紙もお見逃しなくご覧ください。



### 『みかづきちゃん てをつなご』

ひがし くんべい ちよ  
東 君平/著  
あきしよぼう  
亜紀書房

みかづきちゃんは、夜空で生まれてくまの子です。「てをつなご てをつなご」と歌うようにお話がはじまります。みかづきちゃんは、きつねさんとてをつなぎます。さあて、きつねさんのつぎはだれでしょう？ てをつなぐと、お話の中で、おともだちの輪がどんどん広がっていきますね。シリーズ 3 作目、1984年に刊行された本の復刊です。



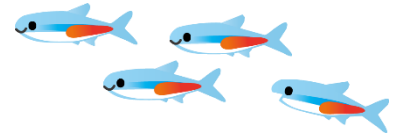
### 『あかちゃんと わらべうたで あそびましょ!』

さいとう しのぶ/構成・絵  
のら書店

いつでもどこでも優しく触れ合い楽しめて、みんなが笑顔になる、そんなわらべうたがたっぷりつまった絵本です。わらべうたに馴染みがなくても、絵の通りにまねっこをすれば、大丈夫！ 泣いてしまったあかちゃんも、わらべうたでごきげんです。後ろのページには楽譜も載っています。何度も歌って遊んで、お気に入りのわらべうたをみつけてくださいね。



3～4歳



### 『いらっしやい』

せな けいこ/さく・え  
どうしんしゃ  
童心社

「いらっしやい、いらっしやい」「なにやさん？」八百屋に魚屋、洋服屋さん、子どもたちが大好きなごっこ遊びの絵本です。せなさんの美しい貼り絵で作られた野菜や魚が画面いっぱいにならでいて、どれにしようか迷ってしまいますね。繰り返しのおもしろさも魅力のひとつ。読んだ後、お子さんとおみせやさんごっこをすると盛り上がりそうです。



### 『うたあそびえほん あのやまこえて どこいくの』

ひろかわ さえこ/作  
アリス館

いろいろな生き物が、やまをこえて買い物に行きます。でんでんむしさんはボタンを、はとさんはマスクを買いますが、ちょっと使い方が違うようです。どうやって使うのでしょうか。歌のようにふしをつけても、そのまま読んでも緩やかなリズムが生まれ、シンプルな優しい絵とともに、幼児期の想像力を育みます。詩の本へといざなう一冊になるでしょう。



### 『もりのなか』

マリー・ホール・エッツ/ぶん・え  
まさき りりこ/やく  
ふくいんかんしよてん  
福音館書店

ばくが森へ散歩にでかけると、昼寝をしていたらいおんがついてきました。しばらく行くとニひきのぞうもついてきて…。みんなで楽しく遊びますが、お父さんがお迎えに来たとたん、動物たちはいつの間にか消えています。白黒の一見地味な絵ですが、それゆえに想像力が広がります。お子さんをおひざにのせて、じっくり読んでほしい絵本です。



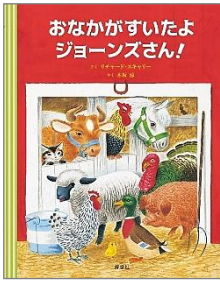
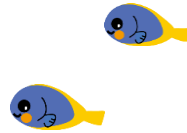
### 『かにこちゃん』

きしだ えりこ/さく  
ほりうち せいいち/え  
くもん出版

かにの「かにこちゃん」のうみでの一日を描いています。ちいさいなみにおおきいなみ、すなのやまをのぼって見たら…？目を奪われる鮮やかな色使いと、「すこすこすこ」という擬音や話しかけるような語り口は、見ても読んでも楽しくなります。「おはよう」から始まり「またね」で終わるお話が、一日の始まりやおやすみの時にもぴったりです。



4～5歳



## 『おなかがすいたよ ジョーンズさん!』

リチャード・スキャリー/さく  
木坂 涼/やく 好学社

うま ひつじ にわとり しちめんちょう  
馬に羊、鶏に七面鳥…。ジョーンズさんの農場にはたくさんの動物たちが暮らしています。おや？ もう夕ご飯の時間なのにジョーンズさんがやってきません。いったいどこに  
いるのでしょうか。動物たちはお腹がすいてたまりません。鮮やかな色彩を使って動物たちが個性豊かに、生き生きと描かれています。繰り返しが多いので幅広い年齢で楽しめます。



## 『かとりせんこう』

たじま せいぞう さく  
田島 征三/作  
ふくいんかんしよてん  
福音館書店

かとりせんこうは、昔も今も、夏の訪れを感じさせてくれます。このお話のかとりせんこうは、もんもんと煙が漂うと、蚊ばかりでなく、お花やいろいろなものが、ぽとんぽとんと落ちてしまいます。ナンセンスなお話は、子どもたちも大好きですね。リズムカルな文、大胆で力強い絵が魅力のこの絵本で、夏のひとときをみんなで楽しんでみませんか。



## 『ねずみくんは めいたんてい』

なかえ よしを/作  
うえの のりこ え しゃ  
上野 紀子/絵 ポプラ社

ある日、たったひとつだけ木に残っていたりんごがなくなったのを見つけたねずみくんは、早速りんごを盗んだ犯人を捜し始めました。ところが、ねずみくんの推理はことごとく外れてしまいます。犯人はいったい誰なのでしょう？ ねずみくんが名探偵になって活躍するこのお話は「ねずみくんシリーズ」45周年の最新巻。最後の最後まで楽しめる一冊です。



## 『うみのあじ』

たけがみ たえ/作  
あかね書房

犬のべらは、なつことおとうさんと一緒に初めて海にやってきました。のどが渇いて海の水を飲むと、海の中に見えるものにも興味津々。思わず海の中に飛び込んでしまったべらは、どうなったでしょう？ 海辺で遊ぶなつこやべら、海の生き物が明るく力強いタッチで描かれていて迫力満点！ お家にながら、海に出かけているような楽しい気分が味わえます。